

シンポジウム 1：臨床検査の未来を拓く人材の育成

1. 司会のことば

松浦 成昭*¹ 坂本 秀生*²

本シンポジウムでは第 8 回日本臨床検査学教育学会学術大会のメインテーマである「臨床検査の未来を拓く」ために欠かすことが出来ない人材育成に焦点をあて「臨床検査の未来を拓く人材の育成」として、臨床検査技師の教育に関わる各分野におけるトップの方々にお集まり頂き、それぞれのお立場から臨床検査の未来を拓くための提言とも言える発表を行って頂いた。

卒前教育の視点では日本臨床検査学教育協議会理事長で東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授の戸塚 実先生から、卒前教育に重要な学問的な指導と学問を生かす動機付けが大事であり、臨床検査技師として identity をもった教育者・研究者の育成が重要であると述べられた。また、卒前教育者と卒後教育者の相互に乗り入れ可能な教育体制の必要性についても言及された。

卒後教育として、宮島喜文先生は国内で唯一の臨床検査技師の学術・職能団体である日本臨床衛生検査技師会(以後、日臨技)代表理事として、日臨技の卒後教育の 3 本柱について述べられた。3 本柱とは日本医学検査学会に代表されるような学術活動、会員の生涯にわたる自発的な学習を組織的に援助する日臨技生涯教育制度、日臨技認定検査技師機構および日臨技認定センターが行ってい

る認定技師制度である。さらに 20 年 30 年先の臨床検査技師のあるべき姿に向け、新しい生涯教育制度の構築に向けて検討している様子が紹介された。

リーダーの育成として、全国国立大学病院臨床検査技師長会 会長(平成 25 年 10 月より東邦大学理学部教授)横田浩充先生はリーダーのなすべきこと、リーダーに求められることを明瞭に述べられ、東大検査部での人材育成方法も具体系に紹介された。また、全国国立大学病院検査部における臨床検査技師の育成・現状として新入職員の教育に関するアンケート調査も紹介された。

研究者の育成として、日本臨床化学会 理事長で熊本大学医学部医学科 教授の安東由喜雄先生より、熊本大学における医学部生、保健学科生の教育を学部生から大学院生まで含めた実際を紹介された。医療の現場は益々横断的医療活動を求められ、学生時代から総合的な医科学を学ぶ必然性について話された。

全てのお話は教育現場にいただけでは把握できない示唆に富んだ内容で、臨床検査の未来を拓いてゆく学生達への教育に有益な内容であり、その話を要約された玉稿で詳細を確認頂きたい。

*¹ 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座 matsura@sahs.med.osaka-u.ac.jp

*² 神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 h-sakamoto@kobe-tokiwa.ac.jp